

第67回全日本学生体操競技選手権 女子団体総合優勝報告

Report of total wins by the women's team for the 67th Japan Gymnastics Association Artistic Gymnastics Championship

小林 幸子

Sachiko KOBAYASHI

女子体操競技部は、昭和36年にスタートし、今年の優勝は半世紀を経て悲願の初優勝となった。

平成4年体育学部の多摩キャンパス移転をきっかけに専用体操場が整い、練習環境が大きく変化した。平成19年には、女子強化を目的とした計画が打ち出され新強化クラブとしての練習が始まった。そして、同時に専任コーチとして小畑秀之氏の起用が決定された。

最初にとりかかったのは、基本力Basic Trainingに重点をおいた。参考までに1週間のスケジュールとして

月曜日 Physical
火曜日 Basic TypeA
水曜日 Stretch
木曜日 Physical
金曜日 Basic TypeB
土曜日 Free
日曜日 Stretch

を繰返し実施し、この後に技(難度)美しい体線の動きスピードと迫力ある演技を追求し続けた。

そして、次に求められる演技は総合的な安定性である。これらを全て理解しながら練習を積み重ね成果ができれば次々と練習内容に変化をつけて質の高い体操を目指した。

体操競技は、オリンピック後、国際体操連盟(FIG)が制定する採点規則の改正が行われる。

技の難易度・美しさ・雄大さ・安定性などの観点から構成点(難度+構成要求+組み合わせ点)と実施点から上限なし(オープンエンド採点法)で採点されるようになって8年が経過している。

この間、採点規則(ルール)を選手1人1人が理解し各選手の演技にどのようにあてはめ点数に結びつくかを計算しながら演技構成を決定していく。この組み合わせが出来れば、後は繰返し練習である。

一時期は、体の軽いジュニア選手が先頭きって国際選手として排出された。そのジュニア選手も成長し大学へと結びつく様になったことも大学の活性化に繋がってきている。

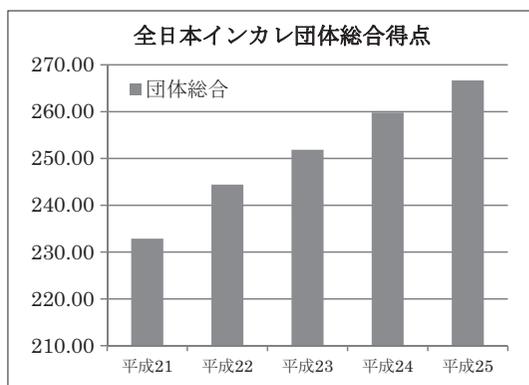
更に、ルール上、平均台・ゆかではダンス系の動き、立ち姿勢を含めた美しい姿勢の動き、芸術性・音楽と振り付けの関連性等ジュニア選手と又違う観点から表現力をかもしだせる大学生にとっては、国際選手として羽ばたくチャンスが大きくなったと考える。

この度の全日本インカレ団体優勝は、大学スポーツ協会のご理解とご支援、そして普段から叱咤激励をいただいている体育学部、ご父兄、

卒業生の皆様の熱い思いが結集された優勝となった。

この優勝の経験を活かし、全日本選手権団体優勝と本学チームから国際選手へ向かう選手の育成を目標とし、これからも精進・努力して更なる高見を目指して行きたいと思っている。

最後に、常に学生と向き合い指導現場に立っているスタッフ、小畑秀之先生・尾西奈美先生・佐藤るか教務助手に心から感謝し、来年からの活躍にエールを送りたい!!



優勝カップ



高松宮妃杯



